

除草剤耐性ダイズ、害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシの展示栽培
(栽培実験期間:平成19年度)

確認項目		確認結果
交雑防止措置について	○交雑防止措置について	本栽培実験のダイズでは、隔離距離による交雑防止措置を行っています。同種栽培作物までの距離が10m以上(約30m)ある事を確認しました。(研究所の外の同種栽培作物のほ場との距離は約550m)。トウモロコシでは、開花期前の除雄による防止措置を行った事を確認しました。
	○モニタリング措置について	本栽培実験では必要ありません。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について	実験種子を密閉容器に入れ他の種子と分別した管理、密閉容器を使用した運搬による拡散防止を実施している事を確認しました。また、平成19年6月7日～21日までの間、防鳥網を設置し、野鳥等の食害による拡散防止を行った事を確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について	本栽培実験の実験区画内の作業に使用した機械等を、実験区画外搬出の際に洗浄等を行った事を確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理等について	本栽培実験と同区画で栽培した非組換えダイズは、収量調査終了後、高圧滅菌による不活化処理を行った事を確認しました。その他の作物については、当初の計画のとおり収穫しなかった事を確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について	遺伝子組換えダイズは完熟前に植物体ごと抜き取り、研究所内の焼却炉で焼却処分、非遺伝子組換えダイズは植物体を抜き取り、裁断し、区画内で鋤込みし不活化処理。収量調査後発生した残渣は、研究所内焼却炉において焼却処分を行った事を確認しました。遺伝子組換え及び非遺伝子組換えトウモロコシは栽培終了後、地下部まで掘り起こし除去後、研究所内の焼却炉で焼却処分を行った事を確認しました。また、各作物とも区画から搬出の際は袋詰めしてこぼれ落ち防止を行った事を確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて	後作として小松菜を平成19年11月5日に播種し20年4月2日、30日にほ場内に鋤込みをした事を確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について	計画書が平成19年4月27日に公表された事を確認しました。
	○説明会の開催等について	説明会が平成19年5月9～12日の間に開催された事を確認しました。また、本栽培実験についての問い合わせの対応、希望者に対し本実験への見学の受け入れを行った事を確認しました。情報提供のフォローアップについても適切に対応していた事を確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について	説明会の開催等、本実験の経過について32件の情報がホームページに掲載された事を確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について	本栽培実験での栽培、処理の終了について、平成19年12月6日にホームページに掲載された事を確認しました。実験結果の概要については、20年5月17日の説明会にて発表された事を確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	○栽培実験に係る管理体制の整備について	栽培実験責任者、作業管理主任者、情報提供主任者を指名して管理体制を整備している事を確認しました。

農業生物資源研究所 展示栽培ほ場



平成19年7月27日撮影
図1